



195回くらしの植物苑観察会 2015年6月27日(土)

-日本の植物文化を語る-

藤尾慎一郎(当館考古研究系 教授)

—穀物と出会った縄文・弥生人—

先日、穀物ダイエットをしている友人に会いました。始めてまだ2~3ヶ月だというのにその効果ときたらてきめんでした。この話題に興味がある方もいらっしゃると思いますが、私が注目したのは「穀物ってほんとうにおいしいですね。」という彼の一言でした。家では完全に穀物を食べないが、たまに宴会などで寿司やそばを食べると、その時のおいしさといったら、それはたまらない!というのです。



そこで私は、歴博の前の館長だった佐原真先生との会話を思い出しました。

私「先生、縄文人はどうして稲作を始めたのでしょうか？」

先生「そんなもん、コメがおいしいからに決まってるからや！」

私「私は、イノシシのステーキの方が好きですけど。」

この時は、コメのおいしさに原因を求めるのは良くないのではないかと思います。味覚は人それぞれのもので、特に先生のように戦争中、ひもじい思いをしていた中学生にとって、ご飯をお腹いっぱい食べるのは夢のようなものであったに相違ないからです。

ところが、友人との会話によって、私は先生と縄文人との共通性を見出したのです。これまで穀物を食べたことがなかった縄文人と、戦争中の中学生は穀物の本当のうまさを知っていたのではないか。だから縄文人は穀物を、つまり稲作を始めたのではないかと。

前置きが長くなりましたのでそろそろ本題に入ります。現在、日本でもっとも古い穀物は今から3100年ほど前のコメです。縄文時代最後の中国山地にある遺跡から見つかった土器の表面に残されたコメのスタンプ痕が証拠です。しかも複数見つかったことから、ある程度コメが存在していたことがわかります。縄文人が作っていたのかどうかについてはまだ意見が分かれています。

アワやキビはコメよりも数百年後に現れるというのが現状ですが、私はアワやキビがコメよりも数百年早く朝鮮半島南部から九州北部にもたらされているのではないかと考えています。現在、その証拠を求めて、若い研究者たちが必死に捜しているのです。

.....

**次回予告** 第196回くらしの植物苑観察会 2015年7月25日(土)  
 「ウリとヒョウタンの文化史」 辻 誠一郎(東京大学大学院・教授)  
 13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要